

多自然川づくり取り組み事例

タ イ ト ル : 安田川多自然川づくり		
水系 / 河 川 名 : 安田川水系 / 安田川		河 川 分 類 : 中小河川
河川の流域面積: 111.16km ²	整備計画流量: 1500m ³ /s(W=1/30)	セグメント: 1
事 業 : 環境整備	事業開始年度 平成26年度	
目 標 設 定 : 定性的	段 階 : P(計画時)	
課題・目的(主な): 流下能力の確保、瀬・淵の保全・再生・創出		
工 法 (主 な): 掘削(河床)、護岸整備		
配慮事項(主な): 河川景観への配慮		

背景・課題、目標設定

<背景・課題>

安田川下流域の過去の変遷をみると、出水によってみお筋が大きく変化し、その時々で瀬・淵・砂州の分布が変化する特性がある。

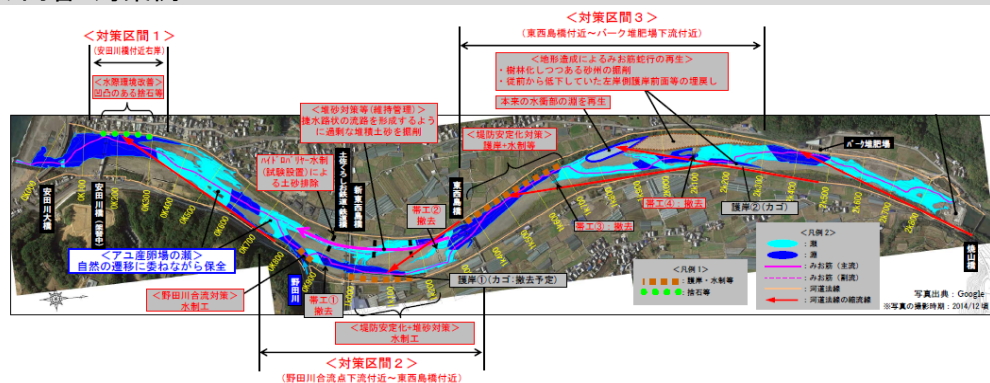
しかし、近年の出水では、土砂堆積が進み、植生が進入して安定化する等、洪水時の流下能力が減少する懸念がある。その結果、護岸前面の深掘れが起こり構造物自体が不安定化してる箇所もある。また、土砂の堆積により瀬や淵の小規模化も起きている。

このままの状態が続くと、固定化したみお筋へ流水が集中して河床が低下し、その一方で攪乱されなくなった砂州の樹林化が進み、いわゆる「河道の二極化」に向かうおそれがあり、護岸の不安定化による治水面への影響と魚類などの生息場所の減少など環境面への影響が課題となっている。

<目標>

区間全体として、みお筋や瀬・淵・砂州の位置を固定化するのではなく、現河道の法線に応じた形態を基本としながら、河道内での河床・河岸地形の変化を許容する川づくりを目標とする。

取り組み内容・対策例



モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

<今後の対応方針>

段階的な施工を行い、施工後の地形変化をモニタリングしながら、次の段階の施工を進めていく。モニタリングにより計画に相違がみられた場合には、順次計画を見直し、治水と環境が両立する「鮎おどる清流安田川」の川づくりを目指す。



アユ

備考

問い合わせ先

電話番号